

中国・四国地域の社会的ネットワークの現状と課題 ——ソーシャルサポートシステムの現状と形成過程

○岡山大学 富士田 亮子 ノートルダム清女大学 浅田 幸子 徳島大学 足立 啓子

ノートルダム清女大学 榎並 英子 徳島大学 遠藤 マツエ 岡山大学 時岡 晴美 岡山大学

田窪 純子 岡山大学 中間 美砂子 岡山大学 中川 忍子 岡山大学 長石 啓子

目的 高齢者人口の増加に伴い、高齢者の在宅を可能にする方策が模索されている。高齢者の自立能力を高め、できるだけ長く在宅できる方法として、家事援助サービスを中心にした有償の支援機関がつくられている。これらの機関の形成過程や現状分析をとうして、中国四国地域の傾向を明らかにし、今後のあり方を考えようとするものである。

方法 中国・四国地域の6県の高齢者向けの支援サービス機関それぞれ3か所とその協力会員、利用会員各々2名ずつを対象として事例調査を行った。調査内容は機関の形成過程、形成の要件、運営、会員の評価のわかるものとした。調査時期は1992年12月～1993年1月である。

結果 1. 有償の支援サービス機関は社会福祉協議会が参画している例が多く、施設 人（コーディネーターとして）がかかわっている。そのため、サービスの提供範囲は市町村単位となっている。コーディネーターの仕事は協力会員、利用会員の調整、データ整理、研修会の企画・運営などである。2. 協力会員は大半が女性で年齢の幅が広い。会員は漸増もしくは停滞ぎみで、その要因は転勤・パートタイム就労である。利用会員は単身者や高齢者世帯が多く、性別にかかわらずみられ、これがサービスを提供するときの問題点となっている。3. 提供サービスは家事サービスが中心で、前もって訓練を必要としないものが多い。入会後には資格とはならないが研修が行われている。依頼も住宅内での作業が多いが、地域によって異なっている。費用は通常の家事サービスについては1時間当たり300円～800円で、香川県を除いて一律である。1日に2～4時間を基準にしている。